

**令和7年度 不妊治療に関する意識と実態調査  
報告書**

**山 梨 県**



# 目次

<b>1.調査の概要</b> .....	1
<b>2.調査結果</b> .....	3
<b>2-1.基本情報</b> .....	4
問1：あなたの年齢をお答えください（令和7年7月1日現在）（SA） .....	5
問2：あなたの性別をお答えください（SA） .....	6
問3：あなた又はパートナーは、現在又は過去に不妊治療を受けたことがありますか（SA） .....	7
<b>2-2.不妊治療の経験が「ある」と回答した方</b> .....	8
問1：現在（又は過去）の治療内容を教えてください（MA） .....	9
問2：不妊治療を開始した年齢を教えてください（SA） .....	10
問3：不妊治療を行っている期間(行った期間)はどれくらいですか（SA） .....	11
問4：不妊治療を行う上で、身体的・精神的・経済的負担について教えてください（SA） .....	12
問5：これまでの不妊治療にかかった自己負担額（保険適用・助成金を除いた実費総額）はどのくらいですか（SA） .....	13
問6：経済的理由で治療を中断・断念したことはありますか（SA） .....	14
問7：これまでに利用したことがある公的支援について教えてください（MA） .....	15
問8：県に望む支援内容を教えてください（MA） .....	17
問9：不妊治療における費用のうち、どの部分に対して県の助成を希望しますか（MA） .....	18
問10：不妊治療において、保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療を行ったことや、検討したことはありますか（SA） .....	20
問11：保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療で、実施したことのある治療内容を教えてください（MA） .....	21
問12：保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担となる治療について、検討したものの実際には行わなかった理由を教えてください（MA） .....	23
問13：不妊治療中に働いているもしくは働いていましたか（SA） .....	24
問14：不妊治療と仕事の両立はできていますか、もしくは両立できていましたか（SA） .....	25
問15：両立が困難だった理由を教えてください（MA） .....	26
問16：仕事と治療を両立させる上で、どのような環境や制度が必要だと思えますか（MA） .....	27
問17：このアンケートをどこで知りましたか（MA） .....	29
問18：不妊治療に関するご意見やお考え、課題などを自由にお書きください（FA） .....	30
<b>2-3.不妊治療の経験が「ない」と回答した方</b> .....	33
問1：過去に不妊治療を検討したことがありますか（SA） .....	34
問2：不妊治療を検討したものの、実施に至らなかった理由を教えてください（MA） .....	35
問3：不妊治療について、どの程度ご存じですか（SA） .....	36

問 4 : もし、自分やパートナーの妊娠が難しいと分かった場合、不妊治療を受けたいと思いますか ( S A ) ..	37
問 5 : どのような状況が整えば治療を受けたいですか ( M A ) .....	38
問 6 : 不妊治療では治療の都合で仕事を休む必要が生じることがあります。こうした状況について、あなたはどのよう に感じますか ( S A ) .....	39
問 7 : 不妊治療を受ける人が、安心して治療に取り組める社会になっていると思いますか ( S A ) .....	40
問 8 : 県の不妊治療に関する支援メニューで知っているもの、聞いたことがあるものを選択してください ( M A )	41
問 9 : 妊娠のしやすさ ( 妊孕性 ) は、年齢とともに低下することをご存じですか ( S A ) .....	42
問 10 : 妊娠・出産に関する正しい知識 ( 年齢との関係など ) や不妊に関することを学校や社会で学ぶ機会は十 分だと思いますか ( S A ) .....	43
問 11 : 将来の妊娠・出産に備えて、若いうちから健康や生活習慣を見直す取り組み ( プレコンセプションケア ) に ついて、どの年代に重点的に教育や啓発を行うべきだと思いますか ( M A ) .....	44
問 12 : このアンケートをどこで知りましたか ( M A ) .....	45
問 13 : 妊娠・出産や不妊治療に関する情報や支援について、どのようなことが必要だと感じますか ( F A ) .	46

# 1.調査の概要

## (1) 調査目的

本アンケート調査は、20代～50代の県民に対し、不妊治療に関する意識や実態の把握及び支援施策のニーズ等の把握を行い、今後の不妊治療支援施策の推進に活用することを目的に行った。

## (2) 調査の概要

調査方法：web（Microsoft forms）を活用したアンケート調査

（QRコードを載せたチラシを医療機関、保健所窓口等に設置し回答を依頼。チラシデータを県のホームページに掲載、関係各所へメール等を活用して回答を依頼。）

対象者：山梨県在住の20代～50代

調査期間：令和7年7月10日から令和7年8月5日まで

回答者数：1,963人

## (3) 本報告書中の記号について

(S A) …単一回答(Single Answer)の略。選択回答は1項目のみ。

(M A) …複数回答(Multi Answer)の略。

(F A) …自由回答(Free Answer)の略。回答者の考えを自由に記入するもの。

n ……回答者数(number)を表す。「n = 100」は、回答者数が100人ということ。

※複数回答の場合は合計値が100%にならない場合がある。

※アンケート結果の数値は小数点第2位を四捨五入して小数点第1位までを表示しているため、各項目の合計が100%にならない場合もある。

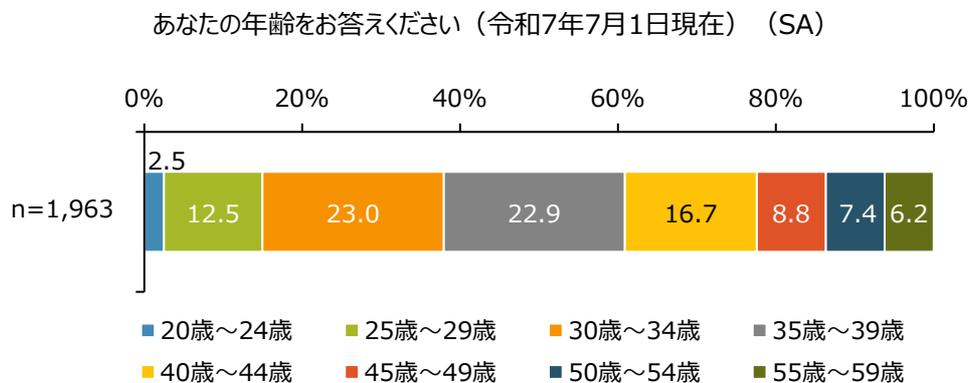
※nが10未満の場合は参考値とする。

## 2.調査結果

## **2 - 1.基本情報**

問 1 : あなたの年齢をお答えください (令和 7 年 7 月 1 日現在) (S A)

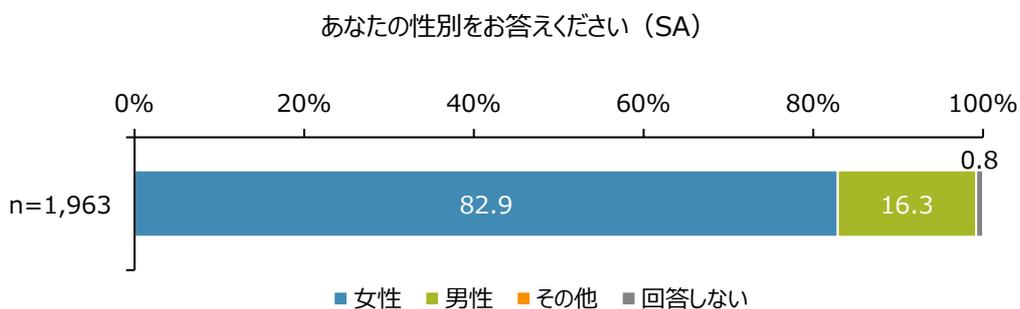
年齢についてみると、「30 歳～34 歳」と回答した割合が 23.0%で最も高く、次いで「35 歳～39 歳」が 22.9%、「40 歳～44 歳」が 16.7%となっている。



	n	%
20 歳～24 歳	49	2.5
25 歳～29 歳	245	12.5
30 歳～34 歳	451	23.0
35 歳～39 歳	450	22.9
40 歳～44 歳	328	16.7
45 歳～49 歳	172	8.8
50 歳～54 歳	146	7.4
55 歳～59 歳	122	6.2
	1,963	100.0

問 2 : あなたの性別をお答えください ( S A )

性別についてみると、「女性」が 82.9%、「男性」が 16.3%となっている。

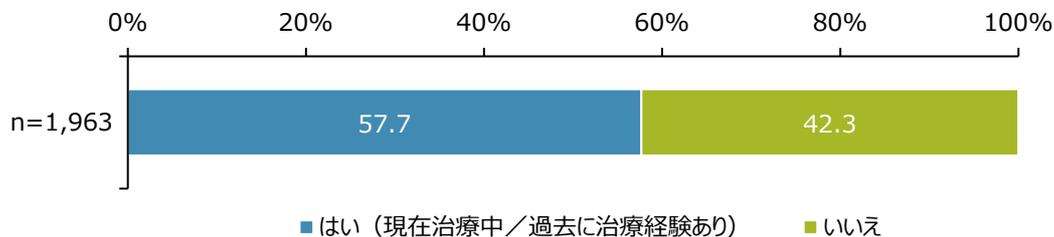


	n	%
女性	1,627	82.9
男性	320	16.3
その他	0	0.0
回答しない	16	0.8
	1,963	100.0

問3：あなた又はパートナーは、現在又は過去に不妊治療を受けたことがありますか（SA）

あなた又はパートナーの不妊治療経験についてみると、「はい（現在治療中／過去に治療経験あり）」と回答した割合が57.7%となっている。

あなた又はパートナーは、現在又は過去に不妊治療を受けたことがありますか（SA）

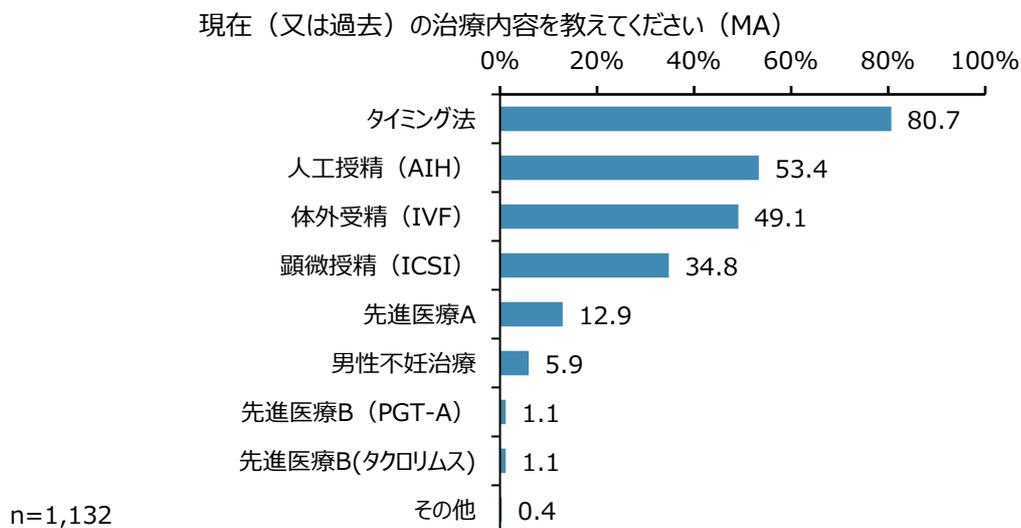


	n	%
はい（現在治療中／過去に治療経験あり）	1,132	57.7
いいえ	831	42.3
	1,963	100.0

## **2 - 2 .不妊治療の経験が「ある」と回答した方**

問1：現在（又は過去）の治療内容を教えてください（MA）

現在又は過去の治療内容についてみると、「タイミング法」と回答した割合が80.7%で突出して高くなっている。

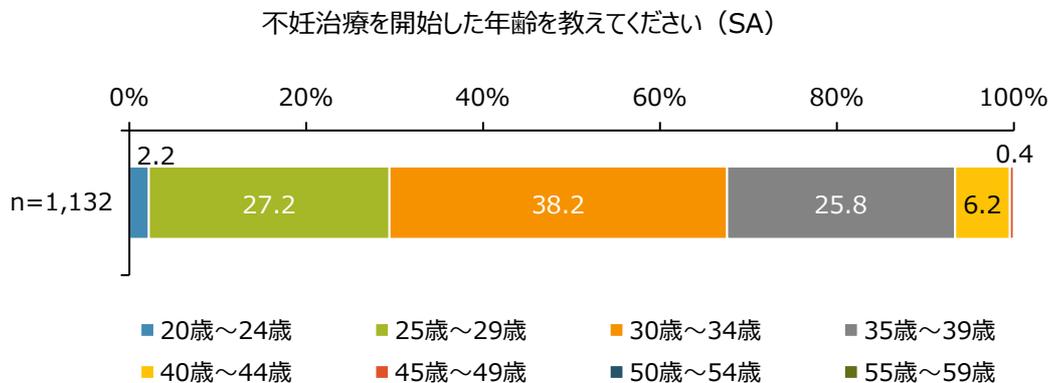


	n	%
タイミング法	913	80.7
人工授精 (AIH)	604	53.4
体外受精 (IVF)	556	49.1
顕微授精 (ICSI)	394	34.8
先進医療 A	146	12.9
男性不妊治療	67	5.9
先進医療 B (PGT-A)	13	1.1
先進医療 B(タクロリムス)	13	1.1
その他	4	0.4

※選択肢の「先進医療 A（タイムラプス、SEET 法、PICSI、EMMA・ALICE、子宮内フローラ検査、ERA、ERPeak、子宮内膜スクラッチ、IMSI 等）」を「先進医療 A」として省略して表記

問 2 : 不妊治療を開始した年齢を教えてください ( S A )

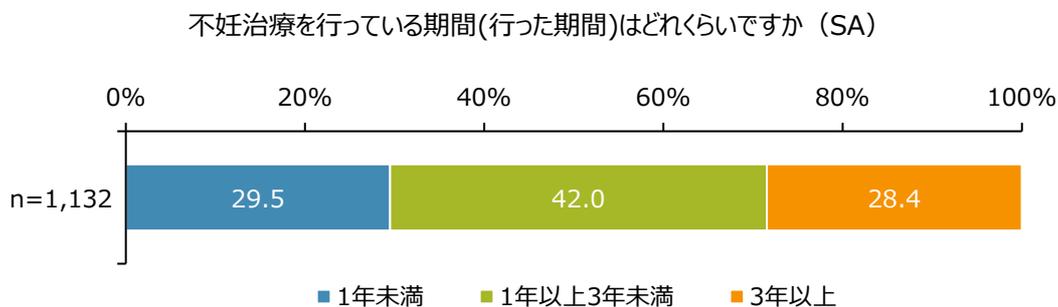
不妊治療を開始した年齢についてみると、「30 歳～34 歳」と回答した割合が 38.2%で最も高く、次いで「25 歳～29 歳」が 27.2%、「35 歳～39 歳」が 25.8%となっている。



	n	%
20 歳～24 歳	25	2.2
25 歳～29 歳	308	27.2
30 歳～34 歳	432	38.2
35 歳～39 歳	292	25.8
40 歳～44 歳	70	6.2
45 歳～49 歳	5	0.4
50 歳～54 歳	0	0.0
55 歳～59 歳	0	0.0
全体	1,132	100.0

問3：不妊治療を行っている期間(行った期間)はどれくらいですか (S A)

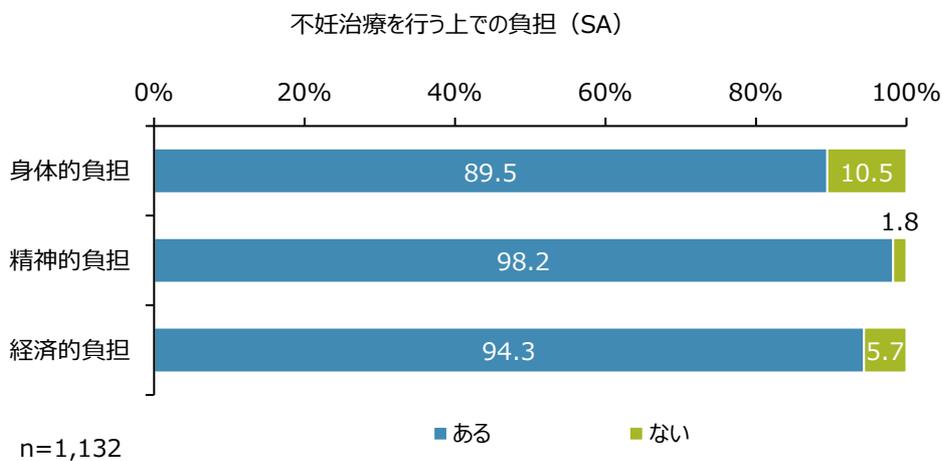
不妊治療を行っている期間 (行った期間) についてみると、「1年以上3年未満」と回答した割合が42.0%で最も高く、次いで「1年未満」が29.5%、「3年以上」が28.4%となっている。



	n	%
1年未満	334	29.5
1年以上3年未満	476	42.0
3年以上	322	28.4
	1,132	100.0

問4：不妊治療を行う上での、身体的・精神的・経済的負担について教えてください（S A）

不妊治療を行う上での身体的・精神的・経済的負担についてみると、すべての項目で負担が「ある」と回答した割合が約9割を占めているが、その中でも精神的負担が最も高くなっている。



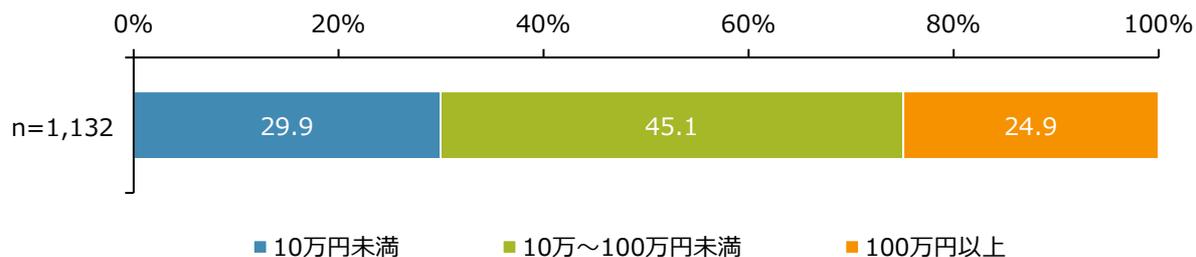
n	ある	ない	合計
身体的負担	1,013	119	1,132
精神的負担	1,112	20	1,132
経済的負担	1,068	64	1,132

%	ある	ない	合計
身体的負担	89.5	10.5	100.0
精神的負担	98.2	1.8	100.0
経済的負担	94.3	5.7	100.0

問5：これまでの不妊治療にかかった自己負担額（保険適用・助成金を除いた実費総額）はどのくらいですか（SA）

これまでの不妊治療にかかった自己負担額（保険適用・助成金を除いた実費総額）はどのくらいかについてみると、「10万～100万円未満」と回答した割合が45.1%で最も高く、次いで「10万円未満」が29.9%、「100万円以上」が24.9%となっている。

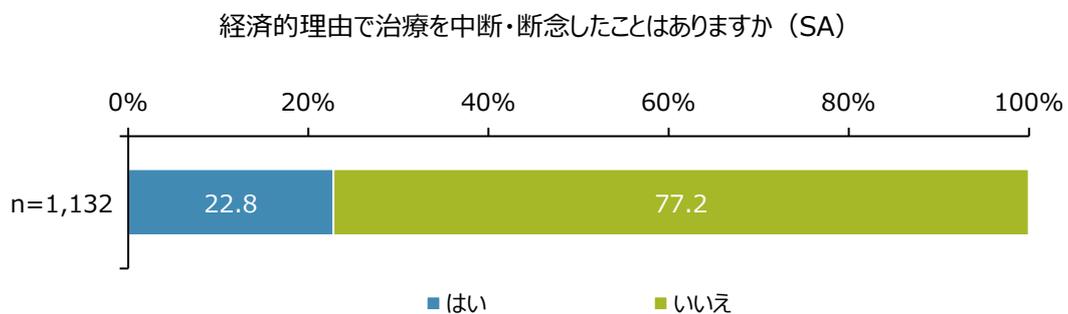
これまでの不妊治療にかかった自己負担額（保険適用・助成金を除いた実費総額）はどのくらいですか（SA）



	n	%
10万円未満	339	29.9
10万～100万円未満	511	45.1
100万円以上	282	24.9
	1,132	100.0

問 6：経済的理由で治療を中断・断念したことはありますか（S A）

経済的理由で治療を中断・断念したことはあるかについてみると、「はい」と回答した割合が 22.8%であることから、経済的理由で治療を中断・断念している割合が約 2 割いることが分かる。

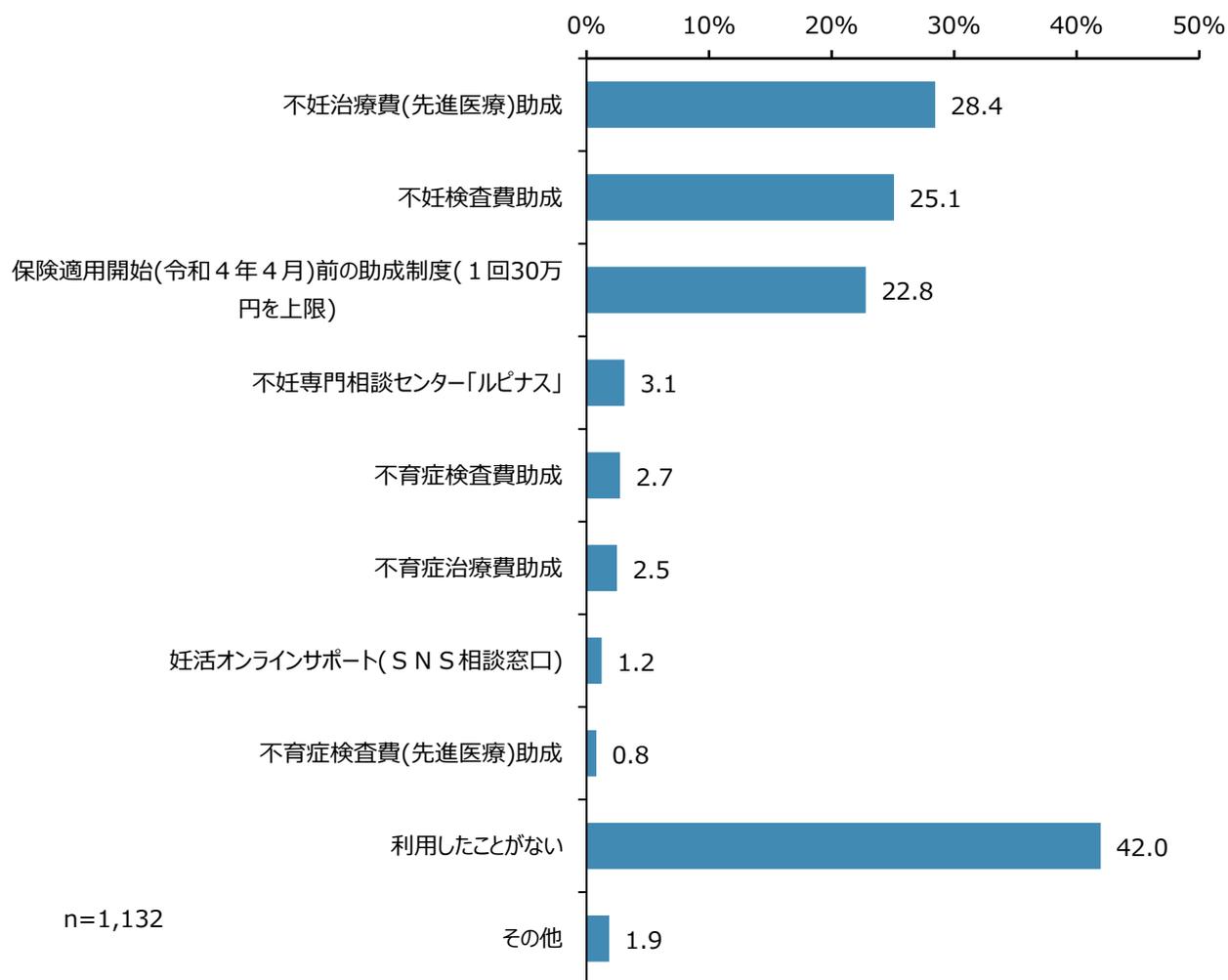


	n	%
はい	258	22.8
いいえ	874	77.2
	1,132	100.0

問7：これまでに利用したことがある公的支援について教えてください（MA）

これまでに利用したことがある公的支援についてみると、「不妊治療費(先進医療)助成」が 28.4%で最も高く、次いで「不妊検査費助成」が 25.1%、「保険適用開始(令和4年4月)前の助成制度(1回30万円を上限)」が 22.8%となっており、この3つの回答割合が突出して高くなっている。一方で、「利用したことがない」と回答した割合が 42.0%で高くなっている。

これまでに利用したことがある公的支援について教えてください（MA）

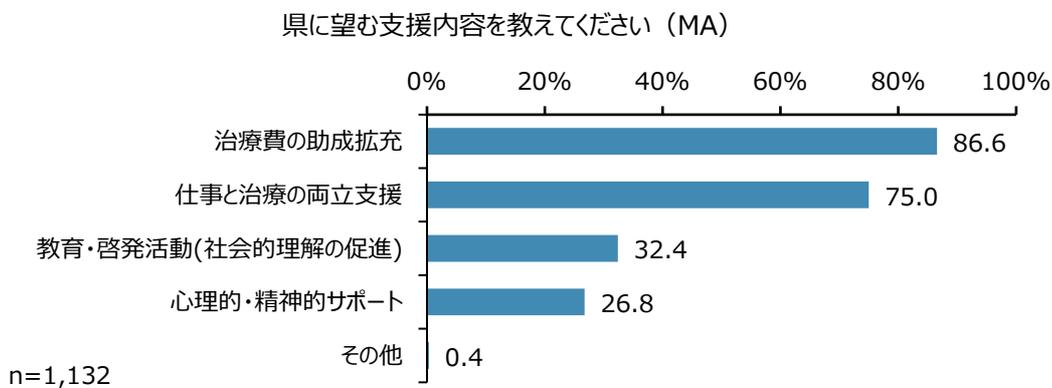


	n	%
不妊治療費(先進医療)助成	322	28.4
不妊検査費助成	284	25.1
保険適用開始(令和4年4月)前の助成制度(1回30万円を上限)	258	22.8
不妊専門相談センター「ルピナス」	35	3.1
不育症検査費助成	31	2.7
不育症治療費助成	28	2.5
妊活オンラインサポート(SNS相談窓口)	14	1.2
不育症検査費(先進医療)助成	9	0.8
利用したことがない	475	42.0
その他	21	1.9

その他	n
市町村の不妊治療費助成事業	6
甲府市不妊治療費助成事業	3
妊孕性温存療法助成	2
利用しているが、どれを利用しているかわからない	2
がん患者等妊孕性温存支援事業	1
一般不妊治療助成	1
甲斐市の一般不妊治療助成	1
市で不妊治療費助成を受けましたが、どの選択肢になるのかわかりません。	1
大月市は当時まだ不妊治療は保険適用外だった為、助成金が降りなかった。後に県の助成金を使用	1
保険適用、甲府市による自己負担分に対する補助	1
保険適用開始(令和年月)前の助成制度(市の制度年万円を上限)	1
わからない	1
総計	21

問 8 : 県に望む支援内容を教えてください (MA)

県に望む支援内容についてみると、「治療費の助成拡充」と回答した割合が 86.6%で最も高く、次いで「仕事と治療の両立支援」が 75.0%となっており、この 2 つの回答割合が突出して高くなっている。

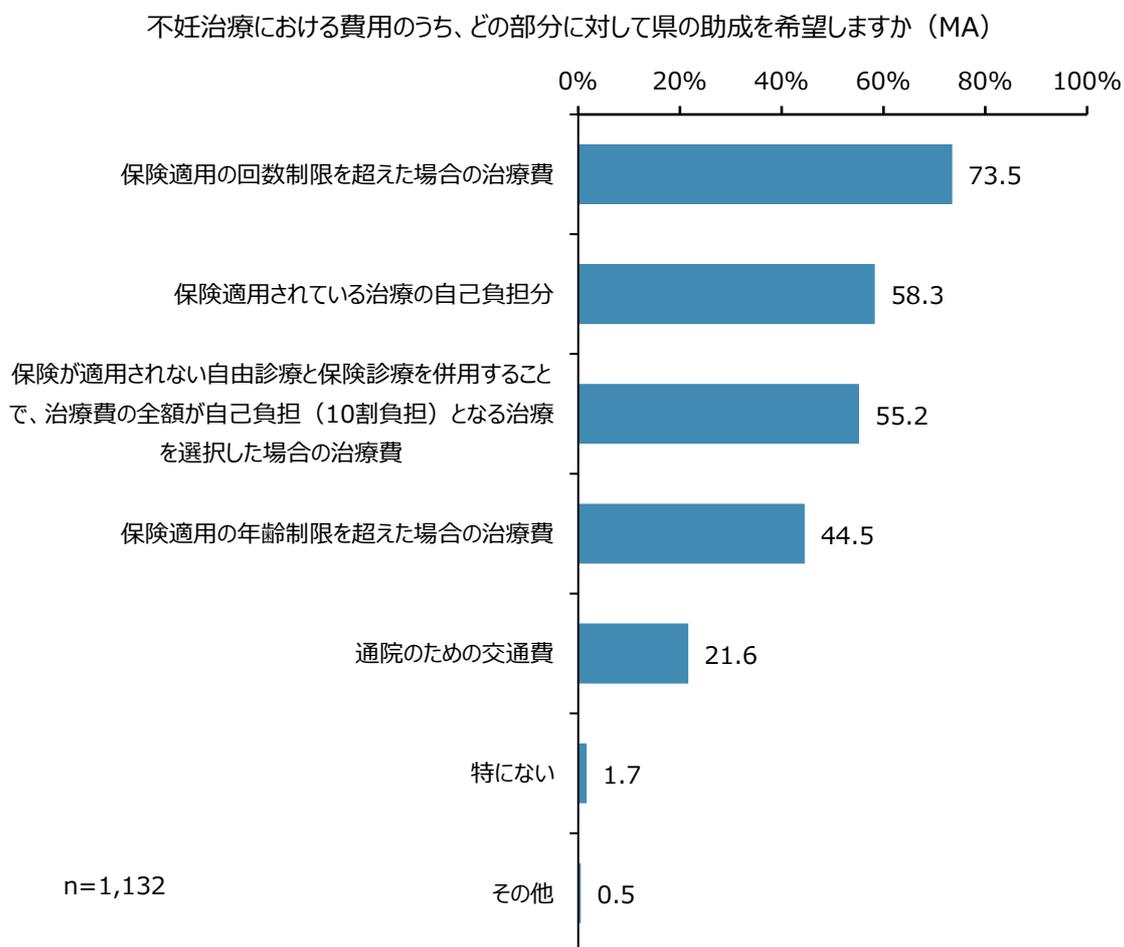


	n	%
治療費の助成拡充	980	86.6
仕事と治療の両立支援	849	75.0
教育・啓発活動(社会的理解の促進)	367	32.4
心理的・精神的サポート	303	26.8
その他	4	0.4

その他	n
通院のための交通費	1
少子化なので治療費を無償化希望	1
助成申請期間の見直し(年度→年)	1
A Y A 世代の妊孕性温存治療に関わる医療費の保険適用	1
計	4

問9：不妊治療における費用のうち、どの部分に対して県の助成を希望しますか（MA）

不妊治療における費用のうち、どの部分に対して県の助成を希望するかについてみると、「保険適用の回数制限を超えた場合の治療費」と回答した割合が73.5%で最も高く、次いで「保険適用されている治療の自己負担分」が58.3%、「保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療を選択した場合の治療費」が55.2%となっている。

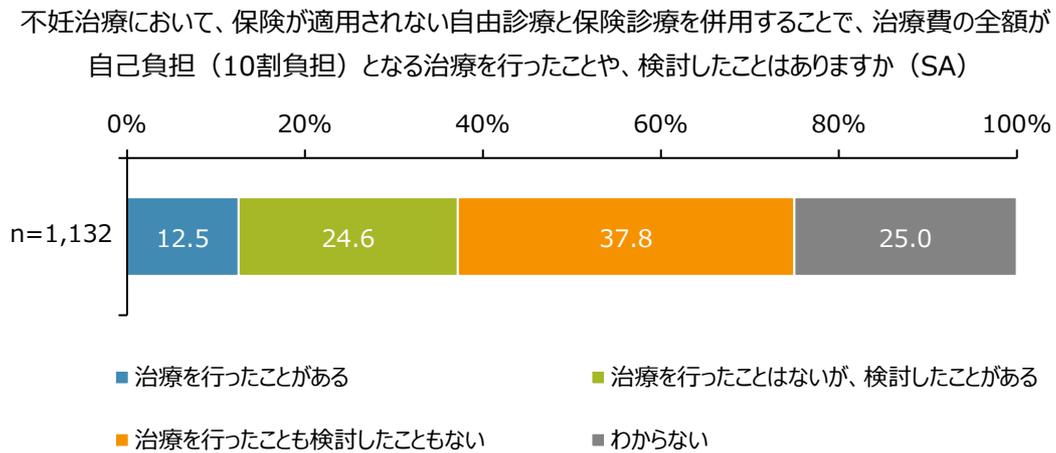


	n	%
保険適用の回数制限を超えた場合の治療費	832	73.5
保険適用されている治療の自己負担分	660	58.3
保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療を選択した場合の治療費	625	55.2
保険適用の年齢制限を超えた場合の治療費	504	44.5
通院のための交通費	245	21.6
特にない	19	1.7
その他	6	0.5

その他	n
妊孕性温存治療に関わる医療費の保険適用	1
妊娠が発覚してからの染色体検査費用	1
実際に不妊治療を実施したが、ハイリスクが伴うことから、県の助成を広くPRすることは慎重にする必要があると考えます。	1
時間とエネルギーをかけていても妊娠できないのに、なぜ治療費がかかるのか疑問。出産したら、子育てにもお金がかかる。不妊治療費は全額、国や県に負担してほしい。村への助成金も回申請したが、薬代と治療費を別に計算が煩雑であり、この手間も負担になっている。もっと当事者視点で制度を見直して、本気で理解して、治療費を全額サポートしてほしい。	1
まだ申請を考えたことがないので詳細を理解していません。	1
タクロリムス使用の際の助成金	1
計	6

問 10：不妊治療において、保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療を行ったことや、検討したことはありますか（SA）

不妊治療において、保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療を行ったことや検討したことがあるかについてみると、「治療を行ったことも検討したこともない」と回答した割合が 37.8%で最も高くなっている。



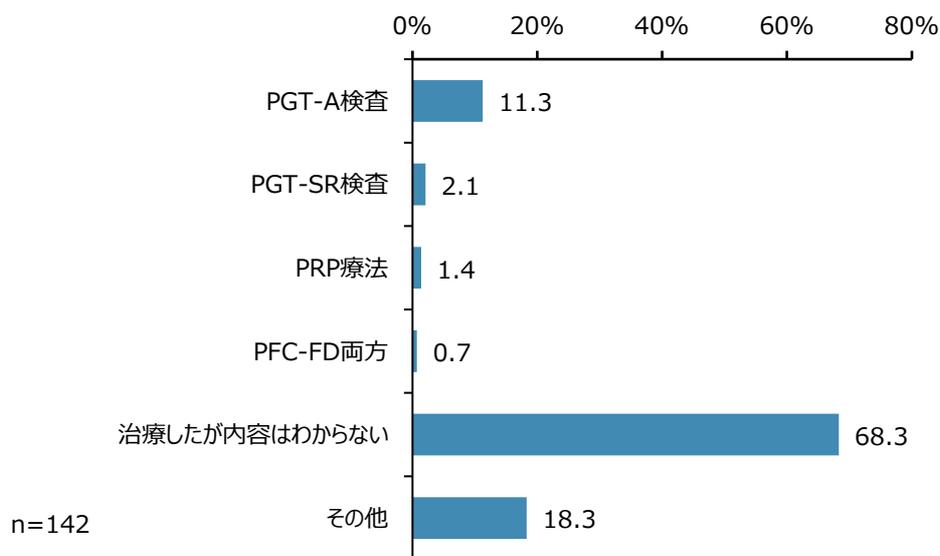
	n	%
治療を行ったことがある	142	12.5
治療を行ったことはないが、検討したことがある	279	24.6
治療を行ったことも検討したこともない	428	37.8
わからない	283	25.0
	1,132	100.0

問 10 で「治療を行ったことがある」と回答した方のみ

問 11：保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療で、実施したことがある治療内容を教えてください（MA）

保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療で、実施したことがある治療内容についてみると、「PGT-A 検査」と回答した割合が 11.3%で最も高くなっている一方、「治療したが内容はわからない」と回答した割合が 68.3%と突出して高くなっている。

保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担（10割負担）となる治療で、実施したことがある治療内容を教えてください（MA）



	n	%
PGT-A 検査	16	11.3
PGT-SR 検査	3	2.1
PRP 療法	2	1.4
PFC-FD 両方	1	0.7
治療したが内容はわからない	97	68.3
その他	26	18.3

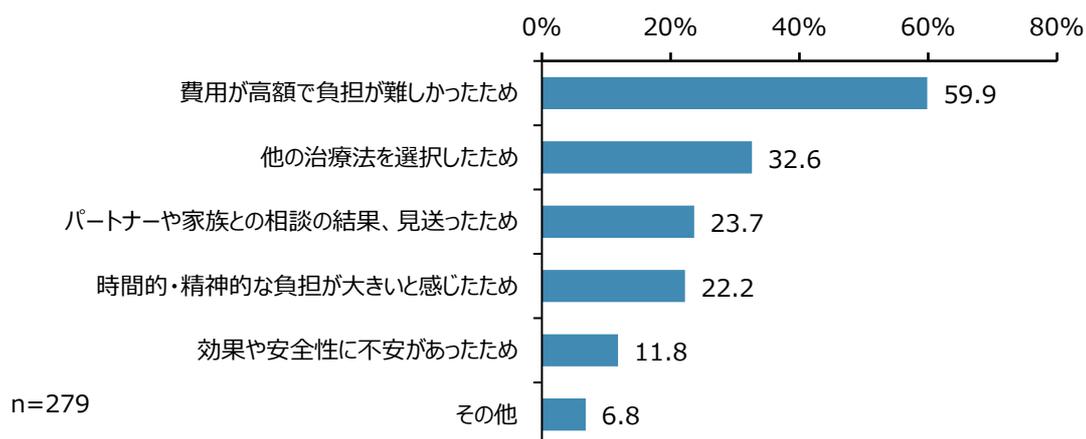
その他	n
不育症の血液検査	2
鍼治療	1
薬の処方	1
慢性子宮内膜炎の検査	1
保険適用前だったので全て自費	1
妊孕性温存療法の為、全て自費診療	1
当時は体外受精も保険適用外だった	1
早発卵巣不全のため、卵胞発育のための薬の使い方が通常と異なり保険適用されなかった。	1
精索静脈瘤手術	1
自由診療による顕微授精（保険適用と使える薬等が異なる）、B C E 検査	1
私が行っていた時は全部自費だった	1
子宮内フローラ	1
採血	1
最初の頃は保険適応ではなかった	1
項目が何を表しているかわかりません。	1
強拡大顕微鏡による精子選別	1
タクロリムス処方	1
タイムラプス	1
シリンジ法	1
エマ検査	1
エマ検査	1
T E S E	1
S E E T	1
B C E 検査、保険適用外の薬による移植、G - C S F	1
2 人目妊娠を希望していたため、1 人目妊娠前に 2 人目以降分を採卵し凍結保存をしました。	1
計	26

問 10 で「治療を行ったことはないが、検討したことがある」と回答した方のみ

問 12：保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担となる治療について、検討したものの実際には行わなかった理由を教えてください（MA）

保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療を検討したものの実際には行わなかった理由についてみると、「費用が高額で負担が難しかったため」と回答した割合が 59.9%で突出して高くなっている。

保険が適用されない自由診療と保険診療を併用することで、治療費の全額が自己負担となる治療について、検討したものの実際には行わなかった理由を教えてください（MA）

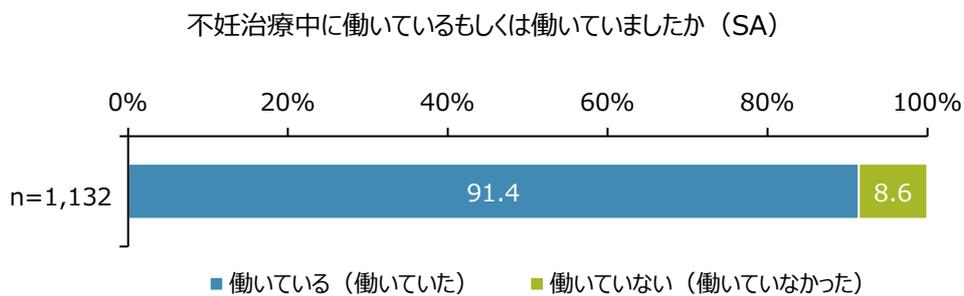


	n	%
費用が高額で負担が難しかったため	167	59.9
他の治療法を選択したため	91	32.6
パートナーや家族との相談の結果、見送ったため	66	23.7
時間的・精神的な負担が大きいと感じたため	62	22.2
効果や安全性に不安があったため	33	11.8
その他	19	6.8

その他	n
妊娠できたため	14
これから	1
まだ悩んでいる	1
上手くいかない結果が続いた時には受けようと思い検討していた	1
病院が全額自己負担にならないよう考えてくれた	1
病院が保険診療を勧めてきたから	1
計	19

問 13：不妊治療中に働いているもしくは働いていましたか（SA）

不妊治療中に働いているもしくは働いていたかについてみると、「働いている（働いていた）」と回答した割合が91.4%で大半を占めている。



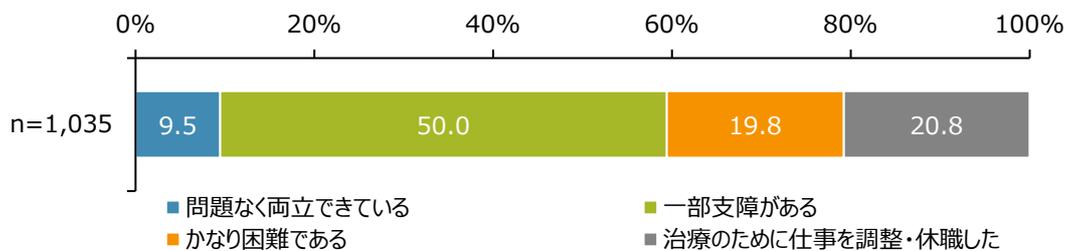
	n	%
働いている（働いていた）	1,035	91.4
働いていない（働いていなかった）	97	8.6
	1,132	100.0

問 13 で「働いている（働いていた）」と回答した方のみ

問 14：不妊治療と仕事の両立はできていますか、もしくは両立できていましたか（SA）

不妊治療と仕事の両立についてみると、「問題なく両立できている」と回答した割合は約 1 割に留まり、「一部支障がある」「かなり困難である」「治療のために仕事を調整・休職した」と回答した割合が約 9 割となっている。

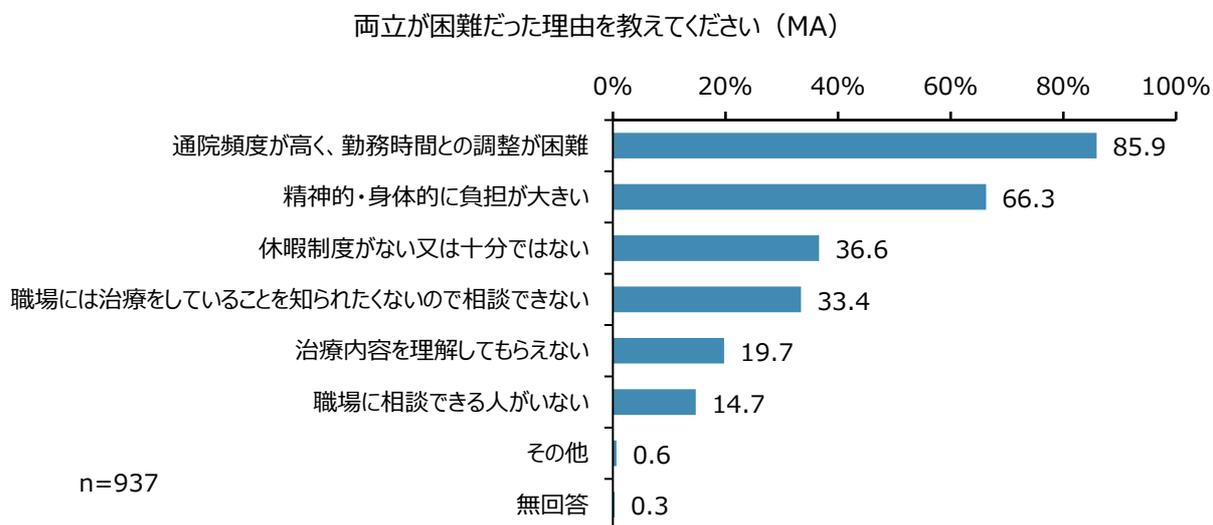
不妊治療と仕事の両立はできていますか、もしくは両立できていましたか（SA）



	n	%
問題なく両立できている	98	9.5
一部支障がある	517	50.0
かなり困難である	205	19.8
治療のために仕事を調整・休職した	215	20.8
	1,035	100.0

問 14 で「一部支障がある」「かなり困難である」「治療のために仕事を調整・休職した」のいずれかを回答した方のみ  
 問 15：両立が困難だった理由を教えてください（MA）

不妊治療と仕事の両立が困難だった理由についてみると、「通院頻度が高く、勤務時間との調整が困難」と回答した割合が 85.9%で最も高く、次いで「精神的・身体的に負担が大きい」が 66.3%で、この 2 つの回答割合が突出して高くなっている。



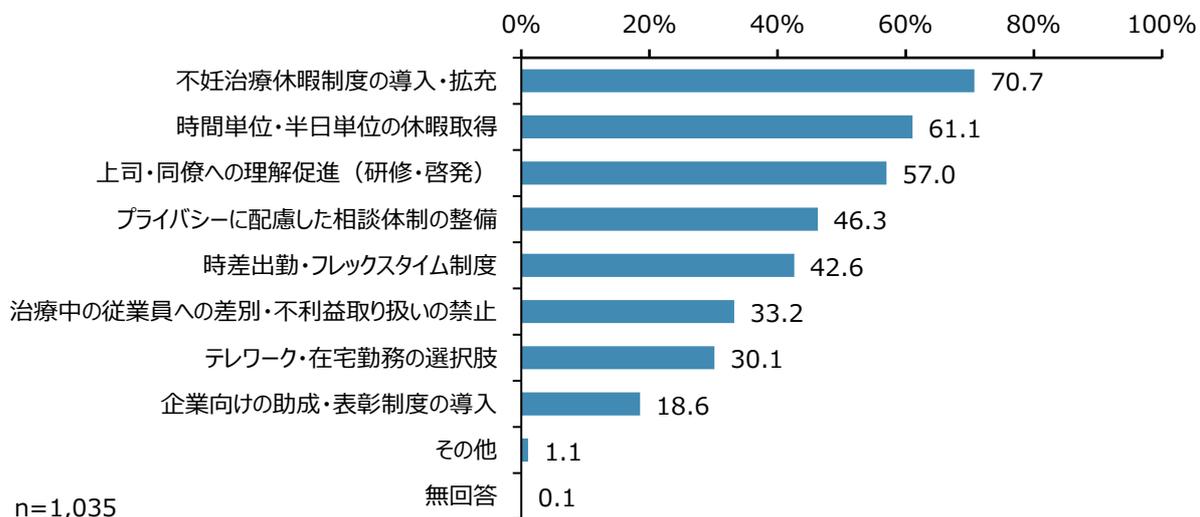
	n	%
通院頻度が高く、勤務時間との調整が困難	805	85.9
精神的・身体的に負担が大きい	621	66.3
休暇制度がない又は十分ではない	343	36.6
職場には治療をしていることを知られたくないので相談できない	313	33.4
治療内容を理解してもらえない	185	19.7
職場に相談できる人がいない	138	14.7
その他	6	0.6
無回答	3	0.3

その他	n
林業の仕事をしていたので、子供ができた場合できる作業がないのと、育休が終わるまでしかいれないと言われて、辞めることになりました。その後は、時間調整がしやすい、シフト制のアルバイトをしています。やりたい仕事で正社員として働きたいのですが、できないので、アルバイトでなんとか働いています。肉体労働だと、在宅勤務やテレワークはできませんので…	1
流産した際に心身の負担があり、1日もしくは2日休んだ。	1
排卵のタイミングがずれるので勤務調整が必要になる	1
直前まで受診日が決まらない	1
職場には不妊治療を伝えた。突然休めない。	1
治療のために転職する際、不定期の不妊治療通院が理由で何箇所も落とされた。正社員での採用は難しい。	1
計	6

問 16：仕事と治療を両立させる上で、どのような環境や制度が必要だと思いますか（MA）

仕事と治療を両立させる上で必要だと思う環境や制度についてみると、「不妊治療休暇制度の導入・拡充」と回答した割合が 70.7%で最も高く、次いで「時間単位・半日単位の休暇取得」が 61.1%、「上司・同僚への理解促進（研修・啓発）」が 57.0%となっている。

仕事と治療を両立させる上で、どのような環境や制度が必要だと思いますか（MA）

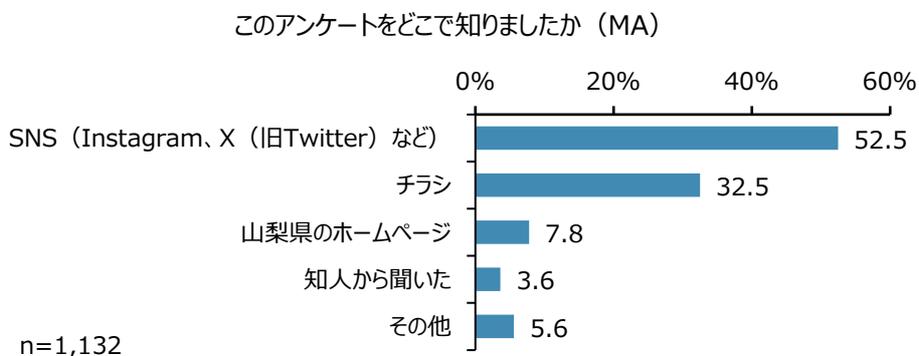


	n	%
不妊治療休暇制度の導入・拡充	732	70.7
時間単位・半日単位の休暇取得	632	61.1
上司・同僚への理解促進（研修・啓発）	590	57.0
プライバシーに配慮した相談体制の整備	479	46.3
時差出勤・フレックスタイム制度	441	42.6
治療中の従業員への差別・不利益取り扱いの禁止	344	33.2
テレワーク・在宅勤務の選択肢	312	30.1
企業向けの助成・表彰制度の導入	192	18.6
その他	11	1.1
無回答	1	0.1

その他	n
両立しなくても良い国	1
夜間や休日にも診療してもらえる環境	1
補助金	1
病院側の技術や対応の改善（病院側の休みに左右されない対応求む）	1
体外受精での流産に対してのお見舞い金、給付金	1
自営業の人に対する支援	1
仕事の量的負担がないこと	1
個人事業主向けの金銭的サポート	1
勤務状況システムで特別休暇の申請がわからないこと	1
医療機関の受付時間帯の拡充。これ一択で通えるようになります。と思います。	1
フリーランスの人に向けた支援、制度が無いので妊活するのに経済的に不安が強い	1
計	11

問 17：このアンケートをどこで知りましたか（MA）

このアンケートを知るきっかけについてみると、「SNS（Instagram、X（旧 Twitter） など）」と回答した割合が 52.5%で最も高く、次いで「チラシ」が 32.5%となっており、この 2 つの回答割合が突出して高くなっている。



	n	%
SNS (Instagram、X (旧 Twitter) など)	594	52.5
チラシ	368	32.5
山梨県のホームページ	88	7.8
知人から聞いた	41	3.6
その他	63	5.6

その他	n
職場・会社への通知	58
市のホームページ	2
妻	1
妊活お話し会	1
新聞	1
計	63

問 18：不妊治療に関するご意見やお考え、課題などを自由にお書きください（F A）

※一部抜粋、内容を要約して掲載しています。

大項目	小項目	記述内容
経済的支援について	保険適用後の費用について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険適用前は不妊治療の助成金があったが、それが無くなってしまったのがとても残念。</li> <li>・保険適用になっても回数制限があり、自己負担額も未だに高い。</li> <li>・保険外の治療は高額になるが、その支援がどこの地域でもほとんどない。</li> <li>・保険適用になったとしても、病院に行く回数が多くて、お金がかなりかかる。</li> </ul>
	交通費について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内でも遠方の病院への通院だったため、交通費の負担がある。</li> <li>・山梨県内ではなかなか納得のいく治療法がなく県外まで通っていたが、精神的負担、金銭的負担、体力的負担が大きかった。</li> <li>・山梨県で専門的に不妊治療を受けられる病院が少なく都内の病院に通院したため、交通費や宿泊費もかかり、負担が多かった。</li> </ul>
	補助金や助成金の要望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠方の病院や県外医療機関への受診のため、交通費の支援がほしい。</li> <li>・保険適用＋補助金にして欲しい。</li> <li>・山梨県全域で不妊治療の保険適用後の自己負担額に対して全額補助を検討して欲しい。</li> </ul>
	各市町村の助成金について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住んでいる市町村により不妊治療の助成制度が違うため統一してほしい。</li> <li>・手続きをするにあたり市町村窓口にも知り合いがいるため、プライバシーを気にせず申請できる仕組みを作って欲しい。</li> </ul>
	申請手続きの煩雑さについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治体の不妊治療助成の手続きがもっと簡単になればありがたい。</li> <li>・手続きが煩雑で申請できなかった。</li> <li>・医療機関窓口で完結できるくらい簡易化してほしい。</li> </ul>
保険適用について	保険適用の年齢・回数の制限について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険適用の年齢と回数制限がプレッシャーになり、治療を諦める、卒業するきっかけになってしまう。</li> <li>・妊娠できる可能性がある限りは、制限なく適用範囲にしてもらいたい。</li> <li>・年齢での保険適用外になった途端、助成制度がなくなってしまうのは、経済的に痛手である。</li> <li>・体外受精で回数の上限を超えてしまい、費用的にも自己負担でやるのは難しくこれ以上の治療が出来ない。</li> <li>・回数が決まっているので、回数を超えた時点で自分でも終わりのタイミングを考えないとならない。</li> <li>・まだチャレンジしたかったが、金銭的に保険が効かないと治療の継続は厳しい。</li> </ul>

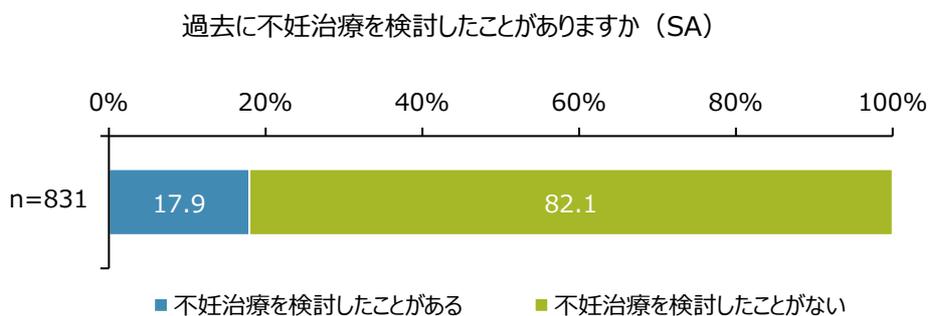
	保険適用の制限に対する焦りについて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保険適用の年齢の制限と回数の制限があることで焦りもあり、治療に悪影響だった。</li> <li>・保険適用が6回までで、それ以降は実費という現実がありながら中々妊娠出来ないの、回数だけが減っていく焦りがある。</li> </ul>
治療に対する負担について	精神的・肉体的な負担について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療に痛みを伴う事もあり、それが身体的苦痛だけではなく精神的苦痛へ繋がる。家族にも気を遣い、職場にも気を遣い、お金はどんどん減っていき、本当に妊娠できるかどうか不明確なままひたすら続けなければならず本当に辛い。</li> <li>・身体も辛いが、1番辛いのは精神的な辛さだった。</li> <li>・終わりが見えず高額な医療費で不安が募るばかりで、精神的にも体力的にもとても辛かった。</li> <li>・金銭面や様々な理由から働かなければならず、かつ相談しにくい内容であることもあり、仕事の負担も重なるため、本当に心身ともに限界になる。</li> <li>・生理周期で受診が決まるので予定がつきにくい。体力的にも大変。</li> </ul>
会社や周囲の人の理解について	仕事と治療の両立について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病院が入った日に急遽早退や休みにすることが難しい。</li> <li>・治療を受ける上で経済的な負担についての心配があり、退職に踏み切れず仕事を続けているものの、治療と仕事との両立について悩むことが多くある。</li> <li>・生理周期に合わせて検査なり内診を行うので、急に病院に行くことが多く、職場の理解が必要。さらに会社を休む事で有給休暇もなくなり、欠勤が多くなると給料が減って経済的負担も増える。</li> <li>・不妊治療ができる病院が近くになく、通院に時間がかかる。病院の待ち時間も長いので仕事との両立が難しかった。</li> <li>・いくら福利厚生がしっかりしていても、仕事の調整が難しく、残業が当たり前の職場では不妊治療が出来ず、退職をせざるを得なかった。</li> <li>・休めば仕事がたまる、翌日の負担が増える。会社で不妊治療の休暇制度があるが、無給のため利用するのは難しい。治療をしながら働くことは、精神的、体力的に負担が大きい。</li> </ul>
	会社における不妊治療に関する制度について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊治療でも育休や産休のような休暇制度を作り、気軽に制度が利用できるよう企業への理解促進や制度の充実を実現してほしい。</li> <li>・産前産後休暇制度は充実しているが、不妊治療休暇制度はないため有給休暇が不足してしまい、消化しきったら欠勤扱いになってしまう。</li> <li>・不妊治療休暇制度はあるが、不妊治療をしていることを公言していないので制度を使えない。</li> <li>・不妊治療休暇制度が進んだ場合使用したいが、上層部や上司の理解が低いと言にくい部分があると思う。</li> </ul>

	不妊治療への理解について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職場の理解が不足していて、精神的に辛かった。</li> <li>・共働きが一般的になりつつあるので、県内企業の経営者への理解促進を進めてほしい。</li> <li>・職場の人手不足もあり通院するのに気を遣う。ゴールがないから職場に言うのは難しいし、長期に渡れば同僚に迷惑がかかる。</li> <li>・職場の上司だけでなく、同僚からも理解してもらおう必要がある。</li> </ul>
病院について	山梨県内での治療について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨の不妊治療専門医院が少なすぎるため、もっと増やしてほしい。</li> <li>・近隣に医療機関が少ないため予約が取りづらく、セカンドピニオンを受けづらい。</li> <li>・山梨県内の病院はどこも初診までの待ち時間が長く、治療につながってからの予約も数ヶ月待ちなど、とにかく待ち時間が長く思うように進められなかった。</li> <li>・県内でも不妊治療のできる病院は国中地域に多く、通うためには時間もお金もかかる。郡内地域に不妊治療専門病院が開設されれば、通院し易くなる。</li> <li>・先進的な治療をしている医療機関も首都圏の方が多く、柔軟な対応をしてもらえるため東京の医療機関に通院している。</li> </ul>
	医療機関への要望について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山梨県内で治療や検査できる内容が少ないので、もう少し不妊治療の検査や治療の拡充をしてほしい。</li> <li>・土日や夜でも受診できるクリニックがあれば仕事と両立しやすいと思う。</li> </ul>
	情報提供について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内で体外受精ができる医療機関が限られており、希望をしても数ヶ月待つことがある。病院のホームページを見ても、どの病院を受診すればよいか、情報を得ることが難しい。</li> <li>・ネットからの情報も少ないため、病院からもっと具体的に不妊治療について発信してほしい。</li> </ul>
相談窓口の充実	相談窓口の充実について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談窓口の充実(治療選択の相談や精神的サポートなど)があるとありがたい。</li> <li>・山梨県には信頼して相談できる場所がない。</li> <li>・辛い時にタイムリーに相談できる場が欲しかった。</li> <li>・電話相談窓口が平日日中しか繋がらず、仕事をしながらでは相談できなかった。</li> </ul>
	相談窓口の相手について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊治療をしたことのある方が相談窓口になってもらいたい。</li> <li>・年齢が高くなると自費になって次の選択肢をどうとるのがいいのか決め切れない時期がでてくるので、気軽に相談できる知識のある方がいる場所、電話窓口があったら、とても気持ち的にも助かると思う。</li> <li>・医師や看護師には話しかけるタイミングも無く、話したいけどわざわざ声をかけてまで話すのも気が引けてしまい結局相談できなかった。タイミングや体外受精等、段階にかかわらず看護師さんなどに相談できればいいと思った。</li> </ul>
パートナーの理解について	パートナーの理解について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金銭的にも精神的にもパートナーの理解と協力がなければできない。</li> <li>・パートナーとの気持ちの擦り合わせが難しく、治療も上手いかず精神的にも辛い。</li> </ul>

## **2 - 3 .不妊治療の経験が「ない」と回答した方**

問 1 : 過去に不妊治療を検討したことがありますか ( S A )

過去に不妊治療を検討したことがあるかについてみると、「不妊治療を検討したことがない」と回答した割合が82.1%となっている。



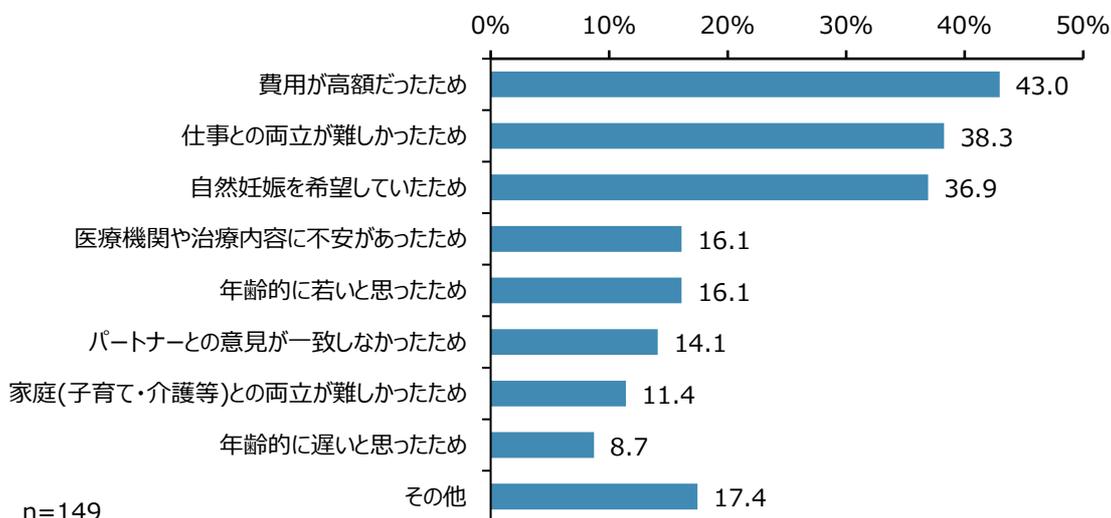
	n	%
不妊治療を検討したことがある	149	17.9
不妊治療を検討したことがない	682	82.1
	831	100.0

問1で「不妊治療を検討したことがある」と回答した方のみ

問2：不妊治療を検討したものの、実施に至らなかった理由を教えてください（MA）

不妊治療を検討したが実施しなかった理由についてみると、「費用が高額だったため」と回答した割合が43.0%で最も高く、次いで「仕事との両立が難しかったため」が38.3%、「自然妊娠を希望していたため」が36.9%となっている。

不妊治療を検討したものの、実施に至らなかった理由を教えてください（MA）



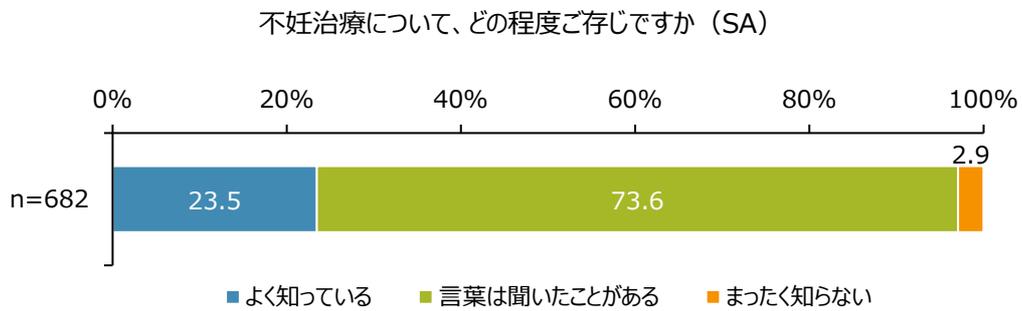
	n	%
費用が高額だったため	64	43.0
仕事との両立が難しかったため	57	38.3
自然妊娠を希望していたため	55	36.9
医療機関や治療内容に不安があったため	24	16.1
年齢的に若いと思ったため	24	16.1
パートナーとの意見が一致しなかったため	21	14.1
家庭(子育て・介護等)との両立が難しかったため	17	11.4
年齢的に遅いと思ったため	13	8.7
その他	26	17.4

その他	n
自然妊娠できたため	20
これから結婚するので検討したいと思っている。	1
これから受ける予定	1
タイミング法までと考えており、治療という治療は受けていない	1
県内にいい施設を探せなかった	1
子宮の病気	1
体重制限があったため	1
計	26

問1で「不妊治療を検討したことがない」と回答した方のみ

問3：不妊治療について、どの程度ご存じですか（SA）

不妊治療の認知度についてみると、「言葉は聞いたことがある」と回答した割合が73.6%で突出して高くなっている。



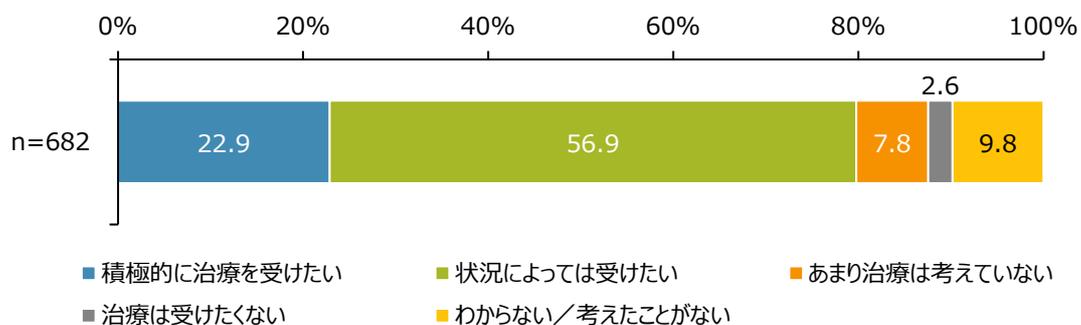
	n	%
よく知っている	160	23.5
言葉は聞いたことがある	502	73.6
まったく知らない	20	2.9
	682	100.0

問1で「不妊治療を検討したことがない」と回答した方のみ

問4：もし、自分やパートナーの妊娠が難しいと分かった場合、不妊治療を受けたいと思いますか（S A）

もし、自分やパートナーの妊娠が難しいと分かった場合、不妊治療を受けたいかについてみると、「状況によっては受けたい」と回答した割合が56.9%で突出して高くなっている。

もし、自分やパートナーが妊娠が難しいと分かった場合、不妊治療を受けたいと思いますか（SA）

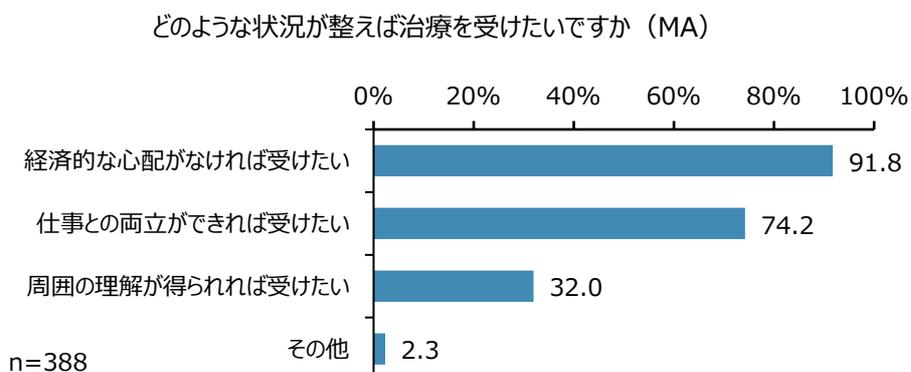


	n	%
積極的に治療を受けたい	156	22.9
状況によっては受けたい	388	56.9
あまり治療は考えていない	53	7.8
治療は受けたくない	18	2.6
わからない／考えたことがない	67	9.8
	682	100.0

問4で「状況によっては受けたい」と回答した方のみ

問5：どのような状況が整えば治療を受けたいですか（MA）

どのような状況が整えば治療を受けたいかについてみると、「経済的な心配がなければ受けたい」と回答した割合が91.8%で最も高く、次いで「仕事との両立ができれば受けたい」が74.2%となっており、この2つの回答割合が突出して高くなっている。



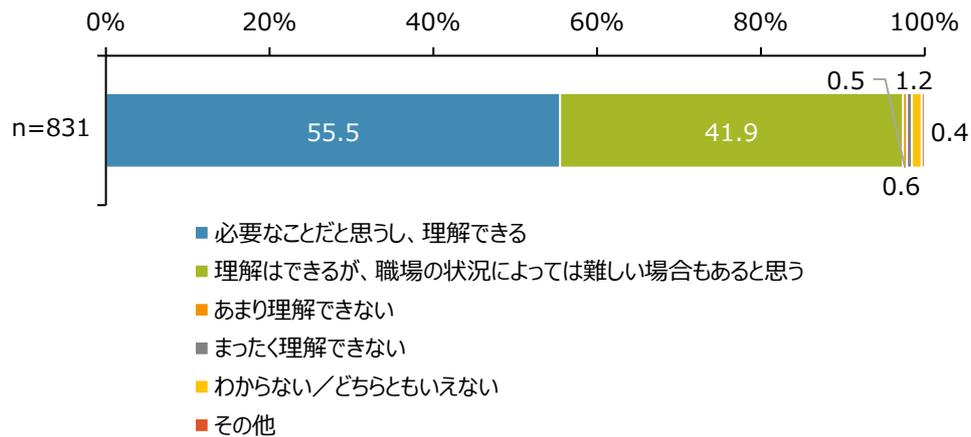
	n	%
経済的な心配がなければ受けたい	356	91.8
仕事との両立ができれば受けたい	288	74.2
周囲の理解が得られれば受けたい	124	32.0
その他	9	2.3

その他	n
パートナーの意向	2
夫婦で納得したら受けたい	2
そのときになってみないとわからない。	1
治療してまで子供が欲しいと思えば	1
自分の年齢が43才くらいまでで、妊娠の確率がある程度見込まれるなら検討したい。	1
不妊ではないので分かりませんが必要性を感じれば	1
本人の意向、体調や精神面に不安がなければ	1
計	9

問6：不妊治療では治療の都合で仕事を休む必要が生じる場合があります。こうした状況について、あなたはどのように感じますか（SA）

不妊治療の都合で仕事を休む必要が生じる場合、どう感じるかについてみると、「必要なことだと思し、理解できる」と回答した割合が55.5%で最も高く、次いで「理解はできるが、職場の状況によっては難しい場合もあると思う」が41.9%となっており、この2つの回答割合が突出して高くなっている。

不妊治療では治療の都合で仕事を休む必要が生じる場合があります。こうした状況について、あなたはどのように感じますか（SA）

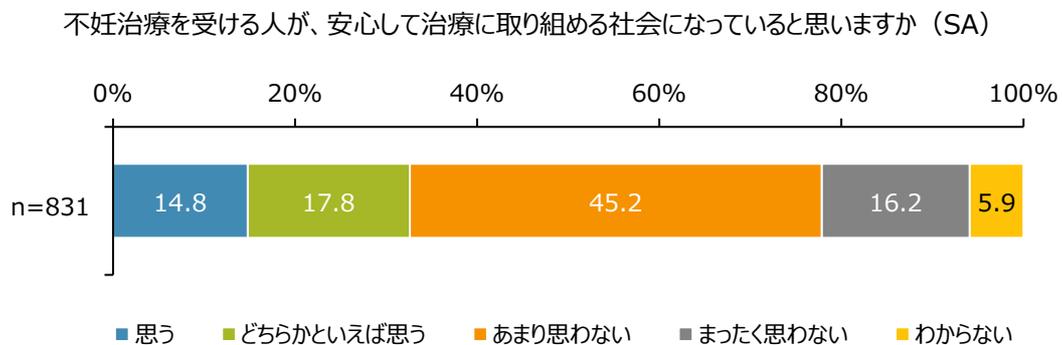


	n	%
必要なことだと思し、理解できる	461	55.5
理解はできるが、職場の状況によっては難しい場合もあると思う	348	41.9
あまり理解できない	4	0.5
まったく理解できない	5	0.6
わからない／どちらともいえない	10	1.2
その他	3	0.4
	831	100.0

その他	n
その方が望み、苦しくなければ（身体的にも、精神的にも）、必要なことだと思います。	1
休むことが必要なのに、そうしにくい風潮がある	1
必要なことで理解もあるが、自分が治療を開始するにあたり職場の人に知られたくないため休みを頻発して取れない	1
計	3

問7：不妊治療を受ける人が、安心して治療に取り組める社会になっていると思いますか（SA）

不妊治療を受ける人が安心して治療に取り組める社会になっていると思うかについてみると、「あまり思わない」または「まったく思わない」と回答した割合の合計が61.4%と過半数となっている。

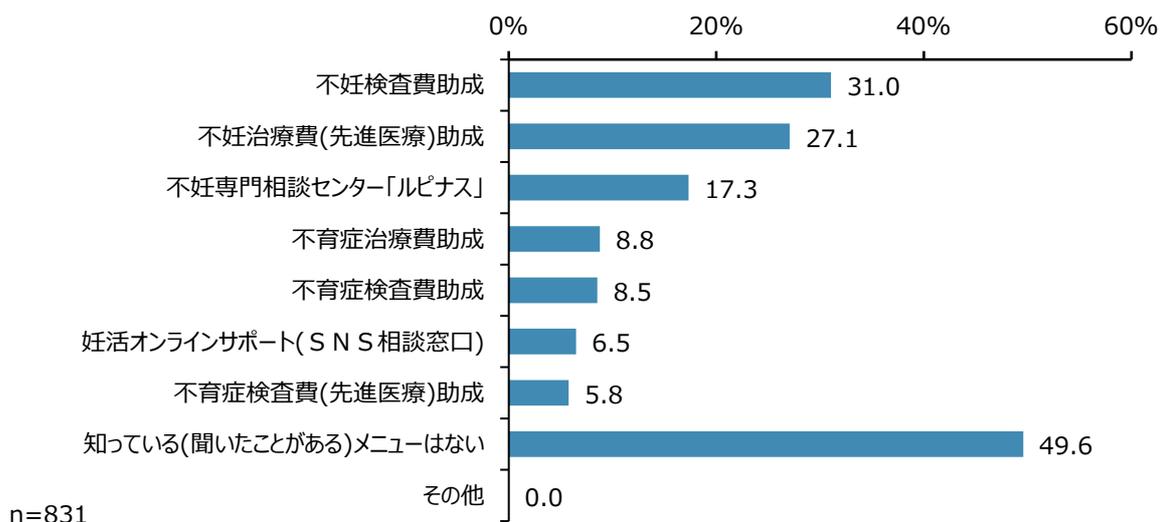


	n	%
思う	123	14.8
どちらかといえば思う	148	17.8
あまり思わない	376	45.2
まったく思わない	135	16.2
わからない	49	5.9
	831	100.0

問8：県の不妊治療に関する支援メニューで知っているもの、聞いたことがあるものを選択してください（MA）

県の不妊治療に関する支援メニューで知っているもの、聞いたことがあるものについてみると、「不妊検査費助成」が31.0%で最も高く、次いで「不妊治療費(先進医療)助成」が27.1%、「不妊専門相談センター『ルピナス』」が17.3%となっている。一方で、「知っている（聞いたことがある）メニューはない」と回答した割合が49.6%で突出して高くなっている。

県の不妊治療に関する支援メニューで知っているもの、聞いたことがあるものを選択してください（MA）

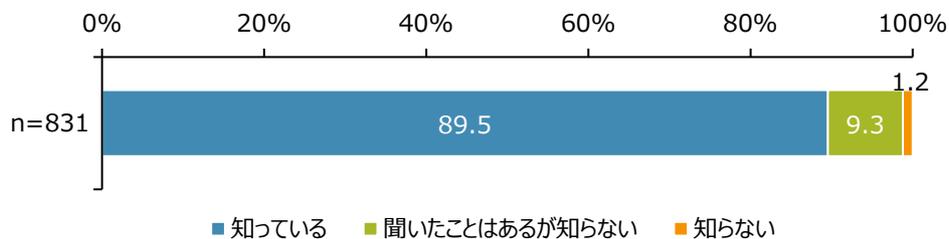


	n	%
不妊検査費助成	258	31.0
不妊治療費(先進医療)助成	225	27.1
不妊専門相談センター「ルピナス」	144	17.3
不育症治療費助成	73	8.8
不育症検査費助成	71	8.5
妊活オンラインサポート(SNS相談窓口)	54	6.5
不育症検査費(先進医療)助成	48	5.8
知っている(聞いたことがある)メニューはない	412	49.6
その他	0	0.0

問9：妊娠のしやすさ（妊孕性）は、年齢とともに低下することをご存じですか（S A）

妊娠のしやすさ（妊孕性）は年齢とともに低下することを知っているかについてみると、「知っている」と回答した割合が89.5%で最も高くなっている。

妊娠のしやすさ（妊孕性）は、年齢とともに低下することをご存じですか（SA）

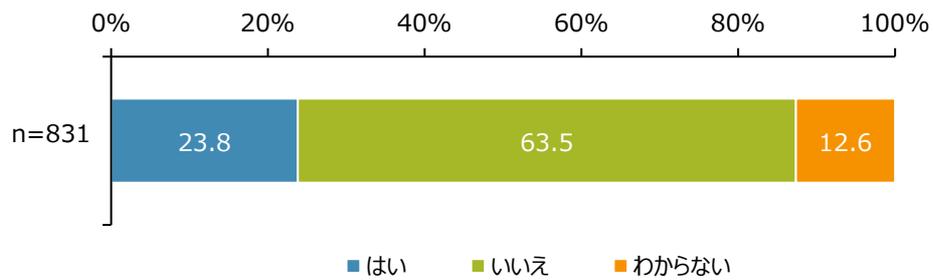


	n	%
知っている	744	89.5
聞いたことはあるが知らない	77	9.3
知らない	10	1.2
	831	100.0

問 10：妊娠・出産に関する正しい知識（年齢との関係など）や不妊に関することを学校や社会で学ぶ機会が十分だと思いますか（S A）

妊娠・出産に関する正しい知識や不妊に関することの学ぶ機会が十分かについてみると、「いいえ」と回答した割合が63.5%で最も高くなっている。

妊娠・出産に関する正しい知識（年齢との関係など）や不妊に関することを学校や社会で学ぶ機会が十分だと思いますか（SA）

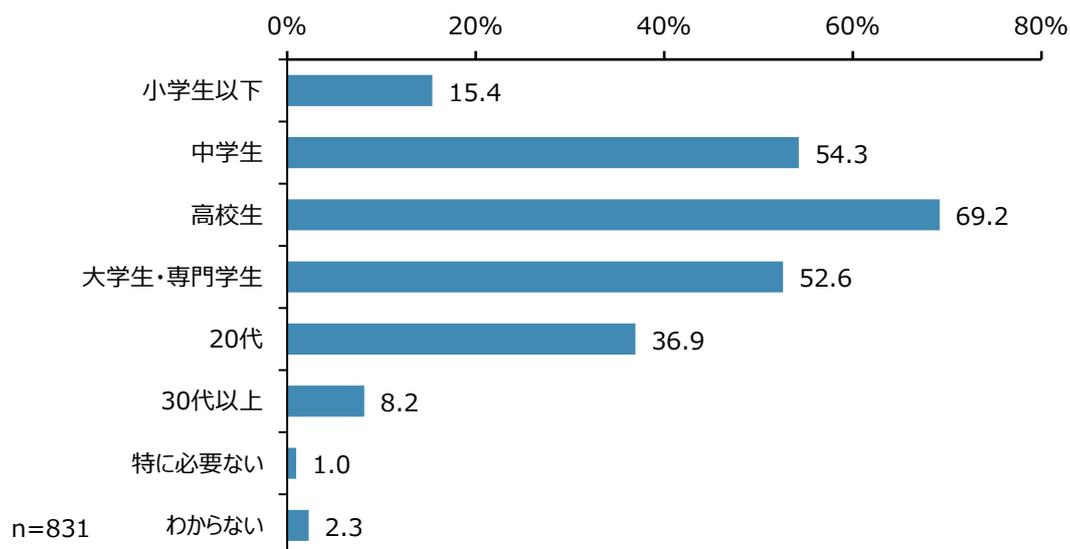


	n	%
はい	198	23.8
いいえ	528	63.5
わからない	105	12.6
	831	100.0

問 11：将来の妊娠・出産に備えて、若いうちから健康や生活習慣を見直す取り組み（プレコンセプションケア）について、どの年代に重点的に教育や啓発を行うべきだと思いますか（MA）

将来の妊娠・出産に備えて、若いうちから健康や生活習慣を見直す取り組み（プレコンセプションケア）をどの年代に重点的に教育や啓発を行うべきかについてみると、「高校生」と回答した割合が 69.2%で最も高く、次いで「中学生」が 54.3%、「大学生・専門学生」が 52.6%となっている。

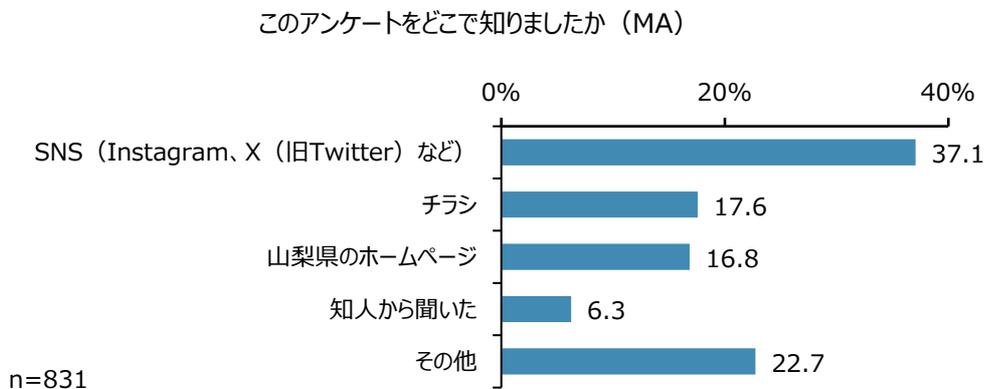
将来の妊娠・出産に備えて、若いうちから健康や生活習慣を見直す取り組み（プレコンセプションケア）について、どの年代に重点的に教育や啓発を行うべきだと思いますか（MA）



	n	%
小学生以下	128	15.4
中学生	451	54.3
高校生	575	69.2
大学生・専門学生	437	52.6
20代	307	36.9
30代以上	68	8.2
特に必要ない	8	1.0
わからない	19	2.3

問 12：このアンケートをどこで知りましたか（MA）

このアンケートを知るきっかけについてみると、「SNS（Instagram、X（旧 Twitter） など）」と回答した割合が 37.1%で最も高く、次いで「チラシ」が 17.6%、「山梨県のホームページ」が 16.8%となっている。



	n	%
SNS (Instagram、X (旧 Twitter) など)	308	37.1
チラシ	146	17.6
山梨県のホームページ	140	16.8
知人から聞いた	52	6.3
その他	189	22.7

その他	n
職場・会社への通知	180
育児教室	2
市のホームページ	2
アプリ	1
市町村の育児教室	1
助産師交流会	1
母子手帳アプリ	1
無回答	1
計	189

問 13：妊娠・出産や不妊治療に関する情報や支援について、どのようなことが必要だと感じますか（F A）

※一部抜粋、内容を要約して掲載しています。

大項目	小項目	記述内容
経済的支援	経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・治療費が高額と聞いたことがあるので、その部分の支援を手厚くした方が良いと思う。</li> <li>・費用補助額の拡大。</li> <li>・回数制限なく全額助成することが必要だと思う。</li> </ul>
社会的理解と支援	職場や周囲の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会全体が男女問わず、会社を休みやすい環境が整えば、不妊治療や子育てができると思う。</li> <li>・妊娠や出産、不妊治療について知る機会を設けること、そのような機会があるということを多くの人を知る必要がある。また、そのような状況や支援制度を多くの人理解し、取り組みやすい社会になることが必要だと思う。</li> </ul>
	制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不妊治療で休めるように休暇の制度を作った方が良い。</li> <li>・治療を受けやすい職場環境や制度の柔軟な対応、見直しが必要。</li> </ul>
教育と啓発	性教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育でプレコンセプションケアについて話す授業があった方がよい。</li> <li>・特に高校生や大学生へのプレコンセプションケアには、生理痛などの対応から 10 代の妊娠リスク、赤ちゃんポストや不妊対策など、幅広くトータルで情報提供をしたほうがよい。</li> <li>・若いうちに性教育や高齢女性の出産・妊娠リスクについて教育してほしい。</li> <li>・学校で性教育について扱う時間が少ないし、家庭に任せるのでは不十分に思う。</li> </ul>
	不妊治療の認知度向上、啓発	<ul style="list-style-type: none"> <li>・妊娠・出産や不妊治療に関する正しい情報を、必要な人全てに伝えることが必要だと思う。</li> <li>・女性だけでなく男性にも正しい知識を得る機会がある必要がある。</li> <li>・不妊治療はプライベート的な面が強く、職場でもあまり口にしてはいけない雰囲気がある。そういった環境を改善するために、不妊治療を世間一般にさらに啓発しオープンにする必要があると感じる。</li> <li>・若い世代への教育だけでなく、上の世代の方への意識改革も必要だと思う。</li> </ul>

情報発信とサポート体制の充実	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デリケートな部分でもあるため難しいかもしれないが、SNS 等も活用して情報の発信を続けていくべきだと思う。</li> <li>・支援や教育など、認知してもらう機会がたくさんあればいいと思う。</li> <li>・相談窓口や補助金があることを知らなかった。必要な人に必要な情報や支援が届くよう、様々な手法で情報発信をしたほうがいい。</li> <li>・正しい知識を広く知ってもらうために、積極的に周知する必要がある。</li> </ul>
	サポート体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パートナーや周りの理解を得るためのサポートや、住んでいる地域の自治体などのサービス、治療に関する費用助成など、必要なものは多いと思う。</li> <li>・もっと気軽に相談できる場所が欲しかった。</li> <li>・カウンセリングなどのサポートを利用しやすい環境になってほしい。</li> <li>・共通の悩みをもつコミュニティが入りやすく分かりやすくあるといいと思う。</li> </ul>